社会医療法人社団 三思会 とうめい厚木クリニック
地域とともに歩む医療 健康をつくり守る医療

とうめい news ニュース

2026.5.1 Vol.297

〒243-0034 厚木市船子237
TEL. 046-229-3377
発 行 者：河野 昌史
編集責任者：林田 朋子
印 刷：(有)タイム21
ホームページアドレス http://www.tomei.or.jp/clinic/

5月の歳時 こどもの日・八十八夜

「皐月(さつき)」とも呼ばれ、新緑が美しく初夏の季節です。八十八夜や端午の節句、母の日といった行事があり、立夏や小満といった二十四節気も迎えます。新茶を摘む時期として知られており、この時期に摘んだお茶を飲むと長生きすると言われています。

TOPICS

パーキンソン病について

脳神経内科：馬嶋 貴正

1． 初めまして

初めまして。東名厚木病院 脳神経内科の馬嶋貴正(まじまたかまさ)です。2025年10月より当グループで勤務しております。

東名厚木病院では、脳神経外科の鬼塚先生・山崎先生と病棟/救急診療をおこなっています。とうめい厚木クリニックでは、月曜日午前/木曜日午後の外来を担当しています。

脳神経内科は、脳や脊髄・末梢神経・筋肉の内科疾患を拝見する科です。こういうと難しく聞こえますが、認知症・片頭痛・脳梗塞などよくあるご病気を拝見しています。よくあるご病気のうちで、我々脳神経内科医が関わると良いご病気に、パーキンソン病があります。本日はパーキンソン病についてお話をします。

2．歳をとって歩くのが遅くなるのは当たり前？

パーキンソン病は決して稀なご病気ではありません。60歳以上でパーキンソン病になる方は、おおよそ100人に1人と言われております。

パーキンソン病患者さんの脳の中では、ドパミンという種類の神経物質に関わる神経が徐々に失われていることが知られています。ドパミンの脳の中での働きは、運動をスムーズにさせることです。パーキンソン病の初期症状は、手の震え(振戦)か歩くのが遅くなったというものがほとんどです。歩きが遅くなってきた、手の震えがでている などの症状がでたら、脳神経内科に受診いただくか、普段おかかりの整形外科や内科の先生に相談してみてください。

3．脳神経内科医が関わることで良くなるパーキンソン病

パーキンソン病の診断には、脳神経内科医が関わることが大きいです(表1、表2)。パーキンソン病の診断には、パーキンソン病と似た病気との区別が重要です。また、抗パーキンソン病薬を投与することで症状が改善するかどうか、というのも重要な診断のポイントだからです。また、パーキンソン病患者さんの諸症状に対して、抗パーキンソン病薬が高い効果を有するので、我々専門家に通院いただくメリットが大きいです。

パーキンソン病の初期で、身体の動きが小さくなる/遅くなるという症状に対して、劇的に抗パーキンソン病薬は効果があります。身体を動ける状態に保つことで、筋肉/姿勢/体力などを保つことができます。逆に言えば、身体が動けない状態が常態化すると、筋肉/姿勢/体力が衰えてしまいます。一度それらが衰えると再度よくするのは容易ではありません。

進行期のパーキンソン病患者さんでは、1回の内服薬の効果持続時間が短くなってしまいます。これを補うために複数の治療法を組み合わせることが重要です。東名厚木病院/とうめい厚木クリニックでは、進行期パーキンソン病患者さんに対する、「ヴィアレブ持続皮下注療法」を導入・維持することが可能です。これは従来治療では、不十分であった、身体の動きの改善が得られる治療法です。

「身体の動きが最近悪くなった」ということでお悩みの方。パーキンソン病を患っているが、最近お困りごとが増えている方。ぜひお気軽に我々へご相談ください。

表1 パーキンソン病の診断ステップ

1. 左右差のある以下の症状がある
   - 手の震え (振戦)
   - 診察で分かる関節の硬い様子 (固縮)
   - 運動の幅の減少 (寡動)
2. 画像検査で他の病気の可能性が低い
   MRI/CT で多発脳梗塞が無い、高度脳萎縮が無い、正常圧水頭症変化が非示唆的
3. 核医学検査でパーキンソン病を示唆する変化がある
   MIBG 心筋シンチグラフィ , DAT スキャンのいずれか
4. パーキンソン病薬を開始すると 1. の症状が良くなる

表2 パーキンソン病と似た症状を呈する疾患

- 脳血管性パーキンソニズム
- 正常圧水頭症
- レビー小体型認知症
- 進行性核上性麻痺
- 多系統萎縮症
- 頚椎症性脊髄症